

2023年3月20日

ウィズコロナの香港～アウトバウンドの復活と香港域内の変化～

香港事務所長 波多野 直美

1. 防疫措置の緩和

2021年12月末から始まった香港の新型コロナウイルス感染症の第5波。それまで厳しい水際対策や域内の感染防止対策によりコロナ感染症を抑え込んで来た香港だが、オミクロン株による突然の感染拡大は社会に大きな混乱を引き起こした¹。その感染拡大もピークを過ぎた昨年春以降、水際・防疫規制が徐々に緩和され、今年1月30日には陽性者の隔離義務が廃止されるとともに、政府による陽性者の全数把握も停止した。

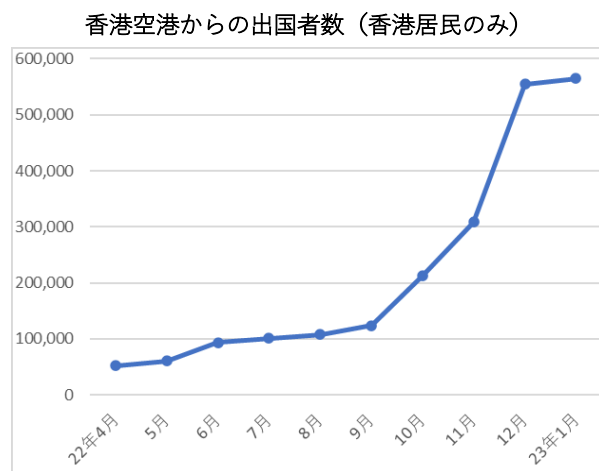
中国本土との間では1月8日に隔離なし往来が再開されていたが、2月6日からは出入境人数制限が撤廃され、PCR陰性証明も不要となり、本土との往来が完全に正常化された²。

本レポートでは、特に昨年12月以降、急速にウィズコロナへと舵を切った香港の現在³についてレポートしたい。

2. アウトバウンド旅行の復活

海外から香港に入境した際の政府指定検疫ホテルでの隔離措置が9月26日に撤廃されてから、香港人の海外旅行が増加した(図1)。

12月14日にはさらに入境後の行動制限が撤廃された⁴ことから、出国者数が急増した。特に春節(1月22日～25日)の連休前には1日当たり人口の約0.4%にあたる3万人を超える人が香港空港から出国している。



(図1) 香港特別行政区政府入境事務処発表のデータを元に香港事務所作成。

¹ 医療のひっ迫や、越境トラックの運転手の間で陽性者が多く確認されたため物流が滞り、スーパーなどでは一時、野菜や肉が品薄になった。また、市民の間でロックダウンの噂が広がり、食品や日用品の買い占めなどが起こった。

² 日本人が香港から中国本土に入境するためには、引き続きビザが必要。

³ 3月1日にはマスク着用義務も廃止された。

⁴ 入境後3日間は飲食店等に入ることができなかったが、その制限が撤廃された。

従来から香港人に人気のあった旅行先は、日本、台湾、タイ、韓国等であるが、2022年冬の大手旅行予約サイトの検索ランキングではトップ10に日本の都市が4つ（東京、大阪、京都、札幌）入るなど、旅行先としての日本の人気が続いている。それゆえ、昨年12月末に突然発表された日本政府による水際対策の見直し⁵は、フライトのキャンセルも相次ぎ、香港人の訪日旅行熱に冷や水を浴びせる形となった。

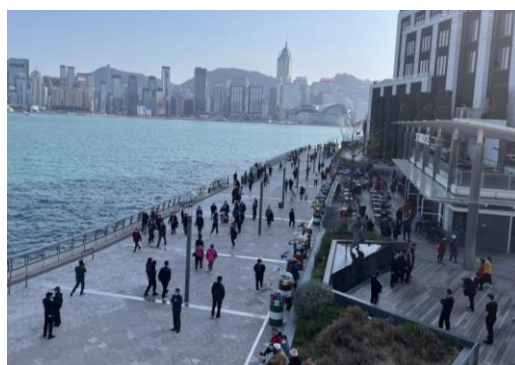
3. 香港域内の変化と今後の展望

香港人の海外旅行が増える一方、香港域内での消費行動にも変化がみられる。一例を挙げると、過去3年間、海外旅行に代わる消費として高級店（高価格帯のレストラン）ほど予約が取りづらい状況が続き、また、寿司をはじめ多くの日本食レストランがオープンするとともに、香港人の間で「おまかせ」ブーム⁶が生まれた。

しかしながら飲食店関係者によると、昨年秋以降、高級店の予約が埋まるスピードが明らかに落ちたという。また、コロナ下の飲食店の営業時間制限は人々の生活習慣にも影響を与え、コロナ以前のように夜遅くまで出歩かなくなったという声や、従業員も夜遅い時間まで働きたがらなくなったという声も聞く。

もっとも、高級飲食店の予約についてはバレンタイン以降、堅調であり、これは、中国本土からの観光客によるものと考えられるという。また、先述のおまかせブームについては、その範囲を日本国内の飲食店に広げつつ継続している。

今後は香港を訪れる中国本土からの観光客を念頭に置く必要がある⁷こと、また、香港人のアウトバウンド旅行とおまかせブーム等、域内での流行を相互に関連させることが、県内の企業にとって、あるいは福岡への誘客にとって一つの可能性になると思われる。



（写真2）香港島を一望できる海沿いの遊歩道。コロナ下ではランニングや釣りをする香港市民以外、ほとんど人を見かけなかったが、現在は多くの観光客で賑わっている。

⁵ 中国（香港・マカオを除く）からの入国者等に対する全員検査の他、「中国（香港・マカオを含む）と日本間の直行旅客便については、到着空港を成田国際空港、羽田空港、関西国際空港、中部国際空港の4空港に限定し、増便を行わないよう、関係する航空会社に対して要請する」というもの。なお、到着空港を4空港に限定する措置は1月4日付通知で撤回され、さらに3月1日からは増便も可となった。

⁶ Facebookには「香港 Omakase おまかせ關注組」というグループがあり、登録者は8.1万人。ここで実際に食べたおまかせメニューが投稿され、情報交換が行われている。

⁷ コロナ以前の2018年には年間5,100万人の中国人観光客が香港を訪れていた。